

言語から文化への目覚め

幼児期は、文化の世界に目覚める時期です。話し言葉は「目の前に今いるひと」とわかり合うためのものです。それに対し、書き言葉（文字）を身につけると、時間を超え、空間を超えて「遠くにいるひと、昔いたひと」を理解することができます。本への扉を開くことになり、世界は一気に広がります！！

文字は生活の中で身の回りの環境と関わることを通して興味を持ち身に付きます。
例) 自分やお友達の名前・スーパーでみた商品の名前・クレヨン等を書いてある色・

文字を身につけると・・・

★本を読める

★「これは何?」「どういう意味?」→図鑑で調べられる→「学び方を知る」

お子さんの中に芽吹いた「学ぶ意欲」を大切にしたいですね! 「文字って楽しい」「本が読めて嬉しい」・・・とできるようになる喜びを心から味わえるよう見守りましょう。お子さんの好きな物（昆虫・恐竜など）を図鑑と一緒に調べてみるのもいいですね。

～園生活でのひとコマ～

例1) 文字が読めるようになると、お集まり前などに紙芝居や絵本をみんなに読んでくれる子がいます。手遊びから始まります・・・小さな先生です(^ ^)

例2) 「お手紙」を書いて交換していることを見かけます。自分の考えや気持ちをお手紙に書いて伝えるって素敵ですね(^ ^)

文字を楽しもう！！

★「しりとり」シリーズ

① “あ”で始まる言葉をあつめよう！（あり、あめ、あくび・・・等）

② 普通のしりとり

③ “三文字の言葉” “動物の名前”

★かるた遊び

ゆっくり探す時間があれば、拾い読みの段階のお子さんでも楽しめますね♥

引用「おうちでモンテッソーリ子育て」百枝義雄 著